

ご冥福をお祈りいたします

古河市市民栄誉賞
医学博士・郷土史家

川島恂二氏逝去

市民に夢と希望を与え、広く市民に敬愛される人に贈られる「市民栄誉賞」。合併前の旧古河市で制定されたものです。

古河市市民栄誉賞の受賞者である川島恂二氏(本町)が、昨年11月22日に逝去されました。享年96歳でした。

葬儀は11月27日、古河市斎場でしめやかに執り行われました。

川島氏の業績を振り返って

川島氏は、大正8(1919)年に古河市で生まれました。

昭和20(1945)年、千葉医科大学を卒業、昭和23(1948)年には医学博士になりました。昭和27(1952)年、父業の眼科医を継承。その後、日本で初めてアオバアリガタハネカクシの毒を発見するなどして医学界で活躍されました。昭和58(1983)年には茨城県医師会賞、日本医師会最高優功賞を、昭和62(1987)年には日本眼科医会会長賞を受賞するなど、顕著な功績をあげられました。

その傍ら、古河郷土史にも深く携わり、古河市史編纂委員として市史編纂に尽力されました。また、古河市文化財保護審議会委員を務め、昭和48(1973)年には古河市文化賞を受賞しています。

その後、『鷹見泉石新訳和蘭国全図』復刻解説(共著)、『奥原晴湖』、『古河藩領とその周辺の隠切支丹』、『土井藩歴代蘭医河口家と河口信任』、『画賛から見る奥原晴湖』を著すなど、執筆活動にも力を注ぎ、郷土史研究会名誉会長として多大な貢献をされました。

これらの功績が認められ、平成8(1996)年、古河市から市民栄誉賞が授与されました。



▲川島恂二氏近影(昨年4月、古河街角美術館での個展「川島恂二97歳の水彩画展」開催前に茨城新聞社から取材を受ける川島氏。写真は茨城新聞社提供)

平成8年7月1日発行の「広報古河」に、受賞の喜びとして川島氏のコメントが掲載されていましたので紹介します。

古河の一市民として、こんな立派な賞をいただきまして、うれしく存じます。『関東平野の隠れキリシタン』を来春出版することが今からとても楽しみです。次の目標は、「古河地区中心の神社古代史」の研究をまとめること。「チャンス^{そくせんそつげつ}を失うな」「速戦即決^{そくせんそつげつ}」を座右の銘として日々実行しています。

晩年の川島氏

昨年4月には、古河街角美術館で川を描いた水彩画の展覧会を開催。90歳代になってから描きためたという思川の支流沿いの風景画は、川島氏の自然に対する造詣の深さが絵に表れ、訪れた人々を魅了していました。

医師として、また、郷土史家として郷土史の研究に精魂^{せいこん}を打ちこみ、偉大なる功績を残した川島氏。ご冥福をお祈りいたします。